様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 ２３ 日現在

機関番号：３２６９３
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2012～2013
課題番号：２４６６００６１

研究課題名（和文）訪問看護の質を反映した新たな報酬体系のあり方に関する研究

研究課題名（英文）The development of scale measuring the level of need for home-visiting nursing care

研究代表者
福井　小紀子（Fukui, Sakiko）

日本赤十字看護大学・看護学部・教授

研究者番号：４０３３６５３２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　2,900,000円、（間接経費）　870,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、訪問看護の質や困難度を反映した報酬体系構築に繋がる枠組み及び訪問看護必要度を測定する調査項目を選定した。5事業所の全利用者データ18ヶ月分400例分をデータセット化し、訪問看護必要度得点と報酬との関連を分析した。結果、訪問看護必要度の測定項目は10項目（主疾患がん・神経難病，頻回の観察要，ターミナル期，要介護度4か5・日常生活自立度BC，チューブ類装着あり，訪問開始30日以内，訪問回数週4回以上，介護力不足，他職種連絡調整多い，本人・家族のコンプライアンス不良）の10点満点で測定可能であり、現行の訪問看護報酬は、保険上訪問看護必要度を反映した体系となっていないことが確認できた。

研究成果の概要（英文）：The study developed a framework and a scale to measure the level of need for home-visiting nursing care focusing on a quality and difficulty of care. The correlation between the levels of need for nursing care and reimbursement on four hundred patients from 5 home-visiting nursing agencies were analyzed. We developed a scale with 10 items (diagnosis of cancer or incurable disease, needed frequent observation, end-of-life stage, low functional level, having medical tubes, within 30 days from a beginning of home care, more than 4 times of home nursing visits per week, insufficiency of caregiving, needed frequent teamwork approach, low compliance of patient and families). We confirmed this scale with these 10 items has good validity. We also clarified there is no relation between the level of need for nursing care and reimbursement for home-visiting nursing.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学、　地域・老年看護学

キーワード：訪問看護　報酬　質評価　患者状態像

１．研究開始当初の背景

米国では、訪問看護に関して2000 年以降、それまでの患者単位での出来高払いの報酬体系から、疾患やADL を踏まえたケアの質を考慮した個人単位の包括払いの報酬体系へ転換がなされた。日本では、急性期病院において、2003 年より患者単位の診断群分類包括評価（DPC）の導入が進められるとともに、病院単位での医療機能や体制に応じた加算等の評価体系が導入されている。しかし、訪問看護においては、現在患者単位かつ訪問時間や回数単位の出来高払いの報酬体系となっており、ケアの質を考慮した評価はなされていない状況である。

２．研究の目的

本研究では、訪問看護の質を測る要素と枠組みを考案し「訪問看護必要度」を作成する。そしてこの指標を基に、訪問看護事業所の18か月間の全利用者400 例のケア提供の質と量と報酬との関連性を分析し、質を考慮した我が国の訪問看護の報酬体系のあり方を提案する。

３．研究の方法

①国内外の医療分野、産業分野、他の学問分野における質管理・評価に関する系統的文献検討を行う。②英国・米国にて患者単位の包括報酬導入の経緯と実態について現地調査する。④訪問看護利用者のデータ提示の協力が可能な５事業所の管理者へ訪問看護の質を考慮した必要度及び報酬体系上の課題についてヒアリングする。これらを基に、訪問看護の質を測る要素を抽出し、「訪問看護必要度」測定指標を作成する。そして⑤作成した質指標の枠組みを基に、訪問看護実践で提供されているサービスの質と量と報酬との関連を、上記５事業所18か月間の全利用者400 例のデータを用いて分析し、質管理の視点を導入した訪問看護必要度と現行報酬体系との関連性を分析し、課題を具体化する。そして、⑥質を考慮した我が国の訪問看護の報酬体系のあり方を提案する。

４．研究成果

２年計画の本研究では、1 年目に、訪問看護の質を反映した将来的な報酬設定に繋がる「訪問看護サービスの枠組み」を考案し、その具体的項目となる「訪問看護必要度」を測定するための項目として、A. 訪問看護の量（訪問回数、訪問時間）と B. ケアの困難度(主疾患、副疾患（認知症の有無、看護師による週４回以上のインスリン注射の必要性の有無）、時期、病期、状態（不穏・問題行動の有無、包括的呼吸器ケアの必要性の有無、状態不安定の程度）、ADL、訪問頻度、利用保険、訪問看護の加算算定状況、医療機器の装着状況、介護力、他機関・他職種との連携状況、家族調整状況、コミュニケーション上の問題の有無)を選定した。

2 年目は、5 事業所の 18 ヶ月分の全利用者データ 400 例分をデータセット化し、「訪問看護必要度」の選定項目の妥当性を確認するために、訪問看護師の主観的な看護的負荷の認識との間に有意な関連が認められた項目を選定した。その結果、①主疾患ががんまたは難病（$p<.001$），②利用者の状態が不安定（$p=.01$），③病期がターミナル期である（$p=.005$），④要介護度 45 または ADL が JABC のうち BC（$p<.001$），⑤医療処置がある（$p<.001$），⑥訪問時期が退院後 30 日以内である（$p=.015$），⑦訪問回数が週 4 回以上（$p<.001$），⑧介護力が低い（$p=.017$），⑨他職種連絡調整が多い（$p<.001$），⑩本人・家族のコンプライアンスは低い（$p=.02$）という 10 項目が挙げられた。この結果より、10 項目からなる訪問看護必要度尺度の妥当性を有すると考えられた。また、10 点満点での得点と訪問看護師の負荷の程度との関連性も有意であった（$r=.363, p<.001$）。

さらに現行の訪問看護サービスに対する報酬額と本尺度による訪問看護必要度との関連を重回帰分析にて検討した結果、10 項目と報酬額との間に,介護保険利用者では,医療処置（β=.196, p=.012)，および訪問時期（β=.326, p<.001）の 2 項目に有意な関連がみられた。医療保険利用者では，訪問回数（β=-.285, p=.001）のみに有意な関連がみられた。この結果から、現在の報酬体系では，訪問看護必要度の高い利用者に対するサービスが報酬単価に結びついていないことが考えられた。訪問看護の質に応じた報酬体系の構築をしていくために,今後 10 項目を報酬に結びつけるようなエビデンスの集積が必要であることが示唆された。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 35 件）

① Fukui S, Yoshiuchi K, Fujita J, Ikezaki S. Determinants of financial performance of home-visit nursing agencies in Japan. BMC Health Services Research. 2014 Jan 9;14:11.

② Fukui S, Fujita J, Yoshiuchi K. The associations with the Japanese people's preference for place of end-of-life care and their self-perceived burden/concern to family members. J Palliat Care. 2013;29(1): 22-28.

③ Ishikawa K, Fukui S, Saito T, et al. Family preference for place of death mediates the relationship between patient preference and actual place of death: A nationwide retrospective cross-sectional study. PLOS ONE. 8 e56848. 2013

④ 福井小紀子. 「在宅医療介護従事者における顔の見える関係評価尺度」の適切性の検討. 日本在宅医学会誌. in press

⑤ 福井小紀子、乙黒千鶴、石川孝子、藤田淳子、秋山正子. 都市部公営団地に在住する健康相談未利用者における健康相談の必要性に関する認識とその関連要因の検討. 日本公衆衛生学会誌. 60(12). 745-753. 2013.

⑥ 福井小紀子. 訪問看護事業所の黒字化のための経営指標の提案. 社会保険旬報. 2545. 22-29. 2013.

⑦ Fukui S, Yoshiuchi K . Associations with the Japanese population's preferences for the place of end-of-life care and their need for receiving healthcare services. Journal of Palliative Medicine. J Palliat Med. 2012;15(10):1106-12.

⑧ Fukui S, Yoshiuchi K, Fujita J, Sawai M, Watanabe M. Japanese people's preference for place of end-of-life care and death: a population-based nationwide survey. Journal of Pain and Symptom Management. 2011;42(6):882-92.

⑨ Fukui S, Fujita J, Tsujimura M, et al. Predictors of Home Death of Home Palliative Cancer Care Patients: Focusing on the Role of Hospital and Community Nurses around the Time of Discharge to Home Palliative Care. Int J Nurs Stud. 2011;48(11):1393-400.

⑩ Fukui S, Fujita J, Tsujimura M, et al. Late referrals to home palliative care service affecting death at home in advanced cancer patients in Japan: A nationwide survey. Annals of Oncology. 2011;22(9):2113-20.

⑪ Fukui S, Ogawa K, Yamagishi A:

Effectiveness of communication skills training of nurses on the quality of life and satisfaction with healthcare professionals among newly diagnosed cancer patients: a preliminary study. Psycho-Oncology. 2011;20(12):1285-91.

⑫ 福井小紀子、藤田淳子、池崎澄江、清水準一、津野陽子、渡辺美奈子：事業収支を黒字化する経営戦略　第5回：「在宅看取り」を支える訪問看護の経営戦略．*訪問看護と介護*16(12)：1033-1037．2011

⑬ 津野陽子、池崎澄江、清水準一、藤田淳子、渡辺美奈子、福井小紀子：事業収支を黒字化する経営戦略　第4回：「ケアの質担保」と「黒字化」は両立するか?　*訪問看護と介護*16(11)：948-951．2011

⑭ 清水準一、池崎澄江、津野陽子、渡辺美奈子、藤田淳子、福井小紀子：事業収支を黒字化する経営戦略　第3回：安定した「黒字」経営を継続するには？*訪問看護と介護*16(10)：862-866．2011

⑮ 池崎澄江、清水準一、津野陽子、藤田淳子、渡辺美奈子、福井小紀子：事業収支を黒字化する経営戦略　第2回：「経営管理の実態」と「事業所特性」と事業収支(黒字/赤字)との関連．*訪問看護と介護*16(9)：772-775．2011

⑯ 藤田淳子、渡辺美奈子、清水準一、池崎澄江、津野陽子、福井小紀子：利用者の「看護的負担」と経営状態．*訪問看護と介護*16(8)：675-679．2011 連載1回

⑰ 福井小紀子：訪問看護推進のために今、現場が求めていること：全国訪問看護事業所への調査結果の分析から．*訪問看護と介護*16(7)：570-580．2011

⑱ 福井小紀子：緩和ケアに関連する介護保険制度上の諸課題．緩和ケア．21(2):130-135.2011

〔学会発表〕（計17件）

① 河野潤子、石川孝子、小林麻奈、福井小紀子．看護的負荷の高い訪問看護利用者の特徴第1報：看護的負荷11項目の有用性の検証．第18回日本在宅ケア学会学術集会．東京．2014.3.15-16.

② 小林麻奈、石川孝子、河野潤子、福井小紀子．看護的負荷の高い訪問看護利用者の特徴第2報：同一法人5事業所の訪問看護利用者における看護的負荷レベルと報酬との関連．第18回日本在宅ケア学会学術集会．東京．2014.3.15-16.

③ 石川孝子、小林麻奈、河野潤子、福井小紀子．看護的負荷の高い訪問看護利用者の特徴第3報：利用保険別時間当たり報酬額の関連要因．第18回日本在宅ケア学会学術集会．東京．2014.3.15-16.

④ 川野英子、福井小紀子、大園康文、藤田淳子．がん終末期の在宅療養者が在宅死となる要因の抽出：決定木分析から.第18回日本在宅ケア学会学術集会．東京．2014.3.15-16.

⑤ 福井小紀子、後藤友美、後藤友子、井上多鶴子．医療と介護の連携促進に向けた政策的動向と各地域の取り組み．第18回日本在宅ケア学会学術集会．交流集会．東京．2014.3.15-16.

⑥ 福井小紀子、藤田淳子、清水準一．訪問看護事業所の黒字化のための経営指標：全国調査による収支比率との関連分析の結果から．第33回日本看護科学学会．大阪．2013.12.6-7.

⑦ 山本則子、永田智子、成瀬昇、福井小紀子他．在宅終末期ケア教育に関する全国看護系大学実態調査：シラバスからの検討．第33回日本看護科学学会．

大阪．2013.12.6-7.

⑧ 山本則子、永田智子、成瀬昇、福井小紀子他．超高齢社会を踏まえた医療体制の見直しに対応する看護共育の在り方．交流集会．第33回日本看護科学学会．大阪．2013.12.6-7.

⑨ 藤田淳子、福井小紀子他．在宅ケアにおける多職種連携行動を評価するツールの作成．第33回日本看護科学学会．大阪．2013.12.6-7.

⑩ 大園康文、福井小紀子、川野英子．終末期がん患者の在宅療養継続を促進・阻害する出来事が死亡場所に与えた影響－経時的なパターンの分類化．第33回日本看護科学学会．大阪．2013.12.6-7.

⑪ Sakiko Fukui, Junko Fujita. Japanese people's preference for place of end-of-life care and the association with their concern for family caregiver burden: A cross-sectional nationwide survey. The International Collaboration for Community Health Nursing Research (ICCHNR) conference 2013. Edinburg. 13-14th March 2013.

⑫ Junko Fujita, Sakiko Fukui. Correlates of home care nurse collaboration with care managers/home helpers for elderly in terminal stage. The International Collaboration for Community Health Nursing Research (ICCHNR) conference 2013. Edinburg. 13-14th March 2013.

⑬ 藤田淳子、池崎澄江、福井小紀子、中里和弘、川越正平．多職種連携の行動を評価する指標の作成：連携行動の自己評価．第15回日本在宅医学会大会．松山．2013.3.14-15.

⑭ 福井小紀子、乙黒千鶴、石川孝子、藤田淳子．　高齢化の進んだ都市部公営団地住民の健康支援のあり方（第2報）第71回日本公衆衛生学会総会 ．Oct．2012

⑮ 乙黒千鶴、石川孝子、藤田淳子、福井小紀子．　高齢化の進んだ都市部公営団地住民の健康支援のあり方（第1報）第71回日本公衆衛生学会総会 ．Oct．2012

⑯ 福井小紀子、乙黒千鶴、石川孝子、藤田淳子．高齢化の進んだ公営団地住民の健康相談の場のニーズと関連要因 高齢化社会に向けた健康相談支援体制のあり方の検討（第2報）．日本地域看護学会 第15回学術集会．June 2012

⑰ 石川孝子、乙黒千鶴、藤田淳子、福井小紀子．地域の健康相談の場の認識と利用者・未利用者相談ニーズの比較 高齢化社会に向けた健康相談支援体制のあり方の検討(第1報)．日本地域看護学会 第15回学術集会．June 2012

〔図書〕（計４件）

① 福井小紀子、吉内一浩、黒木百合子．看護師のための　マナー・言葉かけ・接し方ハンドブック（ナースのためのハンドブック）．ナツメ社．2013年

② 秋山正子、太田秀樹、高橋美保、平原優美、福井小紀子．暮らしの健康手帳．健康と良い友達社．2012年

③ 福井小紀子．在宅看護学（石垣和子監修）．第9章：諸外国の在宅看護．P337-343．南江堂．2011年

④ 福井小紀子．臨床精神腫瘍学（内富庸介監修）．基本編第２章：検診と心理的問題．P40-42．医学書院．2011年

〔その他〕（計４件）

① 招聘【公開講座】福井小紀子．エンド・オフ・ライブケアを地域で効果的に進めるための他職種連携のあり方．第18回日本在宅ケア学会学術集会．東京．

2014.3.15-16.

② 招聘【シンポジウム】福井小紀子　シンポジウム：がん在宅の未来～地域で支えるためにできること．第16回日本在宅医学会大会．浜松．2014.3.1-2.

③ 【学術講演】福井小紀子「がん医療の動向と対策」福岡県看護協会．がん看護研修会 Nov．2011

④ 【シンポジウム】福井小紀子　分科会Ⅱ「看護職が主導・開拓する在宅ケア：海外の在宅ケアの状況と日本の在宅ケアの展望」　看護サミット'11　Nov．2011

６．研究組織

(1)研究代表者

福井小紀子（FUKUI，Sakiko）
日本赤十字看護大学・地域看護学・教授
研究者番号：４０３３６５３２

(2)研究分担者

藤田淳子（FUJITA，Junko）
日本赤十字看護大学・地域看護学・講師
研究者番号：１０５５３５６３